

ICFチェックリスト

Version 2.1a 日本語試用版

これは、国際生活機能分類(International Classification of Functioning, Disability and Health: ICF)の主なカテゴリーをチェックするものである。ICFチェックリスト(ICF Checklist)は、個人の生活機能と障害に関する情報を導き出し記録する臨床的なツールである。この情報はケースの記録を要約したものとして利用できる(臨床現場やソーシャルワーク等において)。このチェックリストはICFかICFポケットバージョンを参照しながら使用すべきである。

H1. このチェックリストを実施する場合、利用可能な情報は全て使用すること。以下で使用した情報に丸をしなさい。

[1]記録されたもの [2]本人やキーパーソンへのききとり調査 [3]他の報告者 [4]直接観察

医学的な情報が得られない場合、付録1に示した健康情報スクリーニング(Brief Health Information)を利用した聞き取り調査を推奨する。

H2. 日付(年 月 日) H3. ケースID() H4. 協力者()

A. 一般的情報

A.1 名前(書かなくてもよい) 姓 _____ 名 _____

A.2 性別 (1)[]女 (2)[]男

A.3 生年月日 _____年 _____月 _____日

A.4 住所(書かなくてもよい)

A.5 最終学歴

A.6 現在の婚姻状況:(一番ちかいものひとつだけにチェック)

- (1) 未婚 [] (4) 離婚 []
(2) 現在結婚している [] (5) 死別 []
(3) 別居中 [] (6) 同棲中 []

A.7 現在の職業(一番ちかいものひとつだけにチェック)

- (1) 雇用されている [] (6) 定年 []
(2) 自営業 [] (7) 失業中(健康的理由) []
(3) 賃金の払われない仕事(ボランティアやチャリティー等) [] (8) 失業中(他の理由) []
(4) 学生 [] (9) その他 []
(5) 家事や所帯の維持 [] (具体的に) _____

A.8 今の健康状態を示す主な医学的診断名

ICDコード(可能な場合)

1. 医学的な問題は存在しない
2. _____ ICDコード: _____
3. _____ ICDコード: _____
4. _____ ICDコード: _____
5. なんらかの問題(疾病, 異常, 損傷)はあるが, その実態や診断名がわからない

パート1a: 身心機能の機能障害

- ・ 身心機能とは、身体系の生理的機能（心理的機能を含む）である。
- ・ 機能障害（構造障害を含む）とは、著しい変異や喪失などといった、身心機能または身体構造上の問題である。

評価点:	0 機能障害なし	1 軽度の機能障害	2 中等度の機能障害
機能障害の程度	3 重度の機能障害	4 完全な機能障害	8 詳細不明
	9 非該当		

心身機能リスト (ピックアップ)	評価点
b1. 精神機能	
b110 意識	
b114 見当識 (時間, 場所, 人)	
b117 知的機能 (精神遅滞, 痴呆を含めて)	
b130 活力と欲動の機能	
b134 睡眠	
b140 注意	
b144 記憶	
b152 情動機能	
b156 知覚機能	
b164 高次認知機能	
b167 言語	
b2. 知覚機能と痛み	
b210 視覚	
b230 聴覚	
b235 前庭機能 (バランス機能を含む)	
b280 痛み	
b3. 音声と発話の機能	
b310 音声	
b4. 心血管系・血液系・免疫系・呼吸器系の機能	
b410 心機能	
b420 血圧	
b430 血液系の機能	
b435 免疫系の機能 (アレルギー, 過敏)	
b440 呼吸	
b5. 消化器系・代謝系・内分泌系の機能	
b515 消化機能	
b525 排便	
b530 体重維持	
b555 内分泌腺 (ホルモンバランス)	
b6. 尿路・性・生殖の機能	
b620 排尿機能	
b640 性機能	
b7. 神経筋骨格と運動に関する機能	
b710 関節の可動性	
b730 筋力	
b735 筋緊張	
b765 不随意運動	
b8. 皮膚および関連する構造の機能	
その他の心身機能	

パート1b: 身体構造の機能障害

- ・身体構造とは、器官・肢体とその構成部分などの、身体の解剖学的部分である。
- ・機能障害（構造障害を含む）とは、著しい変異や喪失などといった、心身機能または身体構造上の問題である。

構造障害の程度 (第1評価点)	構造障害の変化の性質 (第2評価点)	構造障害の部位 (第3評価点)(試案)
0 構造障害なし	0 構造に変化なし	0 2部位以上
1 軽度の構造障害	1 全な欠損	1 右
2 中等度の構造障害	2 部分的欠損	2 左
3 重度の構造障害	3 付加的な部分	3 両側
4 完全な構造障害	4 異常な大きさ	4 前面
8 詳細不明	5 不連続	5 後面
9 非該当	6 位置の変異	6 近位
	7 構造上の質的变化(液の貯留を含む)	7 遠位
	8 詳細不明	8 詳細不明
	9 非該当	9 非該当

身体構造リスト(ピックアップ)	第1評価点 構造障害の程度	第2評価点 変化の性質	第3評価点 部位
s1. 神経系の構造			
s110 脳			
s120 脊髄と末梢神経			
s2. 目・耳および関連部位の構造			
s3. 音声と発話に関する構造			
s4. 心血管系・免疫系・呼吸器系の構造			
s410 心血管系			
s430 呼吸器系			
s5. 消化器系・代謝系・内分泌系に関連した構造			
s6. 尿路性器系および生殖系に関連した構造			
s610 尿路系			
s630 生殖系			
s7. 運動に関係した構造			
s710 頭頸部の構造			
s720 肩部			
s730 上肢(腕, 手)			
s740 骨盤部			
s750 下肢(脚, 足)			
s760 体幹			
s8. 皮膚および関連部位の構造			
その他の身体構造			

パート2:活動制限と参加制約

- ・活動とは、個人による課題や行為の遂行である。参加とは、生活・人生場面への関わりのことである。
- ・活動制限とは、個人が活動を行うときに生じる難しさのことである。参加制約とは、個人が何らかの生活・人生場面に関わるときに経験する難しさのことである。

実行状況の評価点とは、個人が現在の環境のもとで行っている活動や参加の状況を示すものである。現在の環境は社会的状況を含むため、この評価点で示される実行状況は、人々の実際生活の背景における「生活・人生場面への関わり」あるいは「生活経験」としても理解することができる。この背景には環境因子、すなわち物的側面、社会的側面、人々の社会的な態度の側面などの全ての側面が含まれている。現在の環境の特徴については、環境因子の分類を用いることでコード化することができる。

能力の評価点とは、ある課題や行為を遂行する個人の能力を表すものである。この構成概念は、ある領域についてある時点で達成することができる最高の生活機能レベルを示すことを目的としている。個人の完全な能力を評価するためには、異なる環境が個人の能力に対してもさまざまな影響を中立化させるような「標準化された」環境が必要であろう。この「標準化された」環境とは、(a)テスト場面において能力評価のために通常用いられている実際の環境、または(b)それが不可能な場合、画一的に影響すると想定できる仮想的な環境である。

注:もし対象者個人の活動および参加について聞き取りをする必要があれば、付録2を使用しなさい。

実行状況の評価点 (参加制約の程度)	能力の評価点(支援なし) (活動制限の程度)
0 困難なし	0 困難なし
1 軽度の困難	1 軽度の困難
2 中等度の困難	2 中等度の困難
3 重度の困難	3 重度の困難
4 完全な困難	4 完全な困難
8 詳細不明	8 詳細不明
9 非該当	9 非該当

活動と参加のリスト(ピックアップ)	実行状況の評価点	能力の評価点
d1. 学習と知識の応用		
d110 注意して視ること		
d115 注意して聞くこと		
d140 読むことの学習		
d145 書くことの学習		
d150 計算の学習(数学的演算)		
d175 問題解決		
d2. 一般的な課題と要求		
d210 単一課題の遂行		
d220 複数課題の遂行		
d3. コミュニケーション		
d310 話し言葉の理解		
d315 非言語的メッセージの理解		
d330 話すこと		
d335 非言語的メッセージの表出		
d350 会話		

活動と参加のリスト(ピックアップ) つづき	実行状況の評価点	能力の評価点
d4. 運動・移動		
d430 持ち上げることと運ぶこと		
d440 細かな手の使用(つまむこと, 握ること)		
d450 歩行		
d465 用具を用いての移動(車椅子, スケートなど)		
d470 交通機関や手段の利用(自動車, バス, 電車, 飛行機など)		
d475 運転や操作(自転車やバイクに乗る, 自動車運転など)		
d5. セルフケア		
d510 自分の身体を洗うこと(入浴, 拭き乾かす, 手を洗うなど)		
d520 身体各部の手入れ(歯磨き, 髭剃り, 容姿を整えるなど)		
d530 排泄		
d540 ドレッシング		
d550 食べること		
d560 飲むこと		
d570 健康に注意すること		
d6. 家庭生活		
d620 品物とサービスの入手(買い物など)		
d630 調理(料理など)		
d640 調理以外の家事(掃除, 皿洗い, 選択, アイロンがけなど)		
d660 他者への援助		
d7. 対人関係		
d710 基礎的な対人関係		
d720 複雑な対人関係		
d730 よく知らない人との関係		
d740 公的な関係		
d750 非公式な社会的関係		
d760 家族関係		
d770 親密な関係		
d8. 主要な生活領域		
d810 非公式な教育		
d820 学校教育		
d830 高等教育		
d850 報酬を伴う仕事		
d860 基本的な経済的取引		
d870 経済的自給		
d9. コミュニティライフ・社会生活・市民生活		
d910 コミュニティライフ		
d920 レクリエーションとレジャー		
d930 宗教とスピリチュアリティ		
d940 人権		
d950 政治活動および市民権		
その他の活動および参加		

パート3:環境因子

・環境因子とは、人々が生活し、人生を送っている物的な環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境を構成する因子のことである。

環境の評価点:

阻害因子と促進因子

0 阻害因子なし	0 促進因子なし軽度の機能障害
1 軽度の阻害因子	+1 軽度の促進因子
2 中等度の阻害因子	+2 中等度の促進因子
3 重度の阻害因子	+3 高度の促進因子
4 完全な阻害因子	+4 完全な促進因子

環境のリスト(ピックアップ)	評価点 阻害因子と促進因子
e1. 生産品と用具	
e110 個人消費用の生産品や物質(食品, 薬)	
e115 日常生活における個人用の生産品と用具	
e120 個人的な屋内外の移動と交通のための生産品と用具	
e125 コミュニケーション用の生産品と用具	
e150 公共の建物の設計・建設用の生産品と用具	
e155 私用の建物の設計・建設用の生産品と用具	
e2. 自然環境と人間がもたらした環境変化	
e225 気候	
e240 光	
e250 音	
e3. 支援と関係	
e310 家族	
e320 友人	
e325 知人・仲間・同僚・隣人・コミュニティの成員	
e330 権限をもつ立場にある人々	
e340 対人サービス提供者	
e355 保健の専門職	
e360 その他の専門職	
e4. 態度	
e410 家族の態度	
e420 友人の態度	
e440 対人サービス提供者の態度	
e450 保健の専門職者の態度	
e455 その他の専門職者の態度	
e460 社会的態度	
e465 社会的規範・慣行・イデオロギー	
e5. サービス・制度・政策	
e525 住宅供給サービス・制度・政策	
e535 コミュニケーションサービス・制度・政策	
e540 交通サービス・制度・政策	
e550 司法サービス・制度・政策	
e570 社会保障サービス・制度・政策	
e575 一般的な社会的支援サービス・制度・政策	
e580 保健サービス・制度・政策	
e585 教育と訓練のサービス・制度・政策	
e590 労働と雇用のサービス・制度・政策	
その他の環境因子	

パート4:その他の背景的情報

4.1 対象者個人の人生や生活について簡略に描写せよ

4.2 生活機能に關与する個人因子について記述しなさい(たとえば,ライフスタイル,習慣,社会的背景,教育,人生の出来事,人種,性別,個人の心理的資質など)

ICF サマリー

